

大島地域 無加温ハウスパッションフルーツ栽培暦（1年1作型）

平成29年1月作成

適期管理を心がけ、単収向上を図りましょう。

生産履歴を記帳し、安心安全な果実生産に努めましょう。

月	旬	生育相	管理作業	温度管理	主な管理作業の内容	
9	上中下	新梢伸長期	土づくり	ビニル被覆 日中は30℃以下になるよう換気する 夜間はハウスを閉じ冷気が入り込まないようにする	土壌pHが5.5~6.0になるように苦土石灰を施用する 良質堆肥を2トン/10a施用する。 株間は2~3mとし、主幹形に整枝する。	
10	上中下		定植, 施肥		植え付け遅れは、開花期の遅れや着花（果）量の減少に影響するので、できるだけ早めに植え付ける。 主枝は、棚上部に達するまで1本に伸ばす。 着花したら必ず摘蕾し 、主枝の伸長を促す。 定植後かん水は、天候や生育を見ながら量を調整する。	
11	上中下		誘引・腋芽かき		側枝は順次左右に伸ばしていき、主枝は隣の株に達したら 摘芯 する。	
12	上中下		施肥		側枝は地面から20~30cmで摘芯し、側枝から発生する脇芽は早めにかく。 ハウス内温度に注意し、特に温度上昇しやすい晴天日は谷、サイドビニルを開放する。	
1	上中下	発芽期・新梢伸長期	せん定	ハウス内の換気の徹底・湿度の管理 梅雨明け後の気温上昇に注意	2月上旬以降に側枝を2~3節で切り返す。	
2	上中下				せん定後は結果枝を10~15cm間隔で配置し、発芽伸長を促すために、かん水をしっかり行う 結果枝は地面から20~30cmで摘芯する。	
3	上中下				誘引・腋芽かき	受粉に クロマルハナバチ を利用する場合は、使用基準を守り、適正に利用する。
4	上中下				施肥	着果は 結果枝1本当たり4~5個程度 とする。 (最終節まで受粉はせず、小玉果は必ず摘果する)
5	上中下				腋芽かき	開花期のかん水量が多いと、病気の発生を助長するので注意する。 果実は成熟すると自然落果するので、クリップ設置による落下防止策や、落果衝撃防止ネットを設置する。
6	上中下				腋芽かき	早期落果対策 として高温に注意し、ハウス内をなるべく外気温に近づけるよう 換気 を徹底する。
7	中下				腋芽かき	果実成熟期のかん水は、樹の衰弱やしなび果等が発生しないよう、収穫が終了するまでしっかり行う。
8	上中下				収穫	収穫した果実は出荷まで 涼しい場所に保管 する。 果こう部に しなび防止のシール をはる。
8	上中下	収穫後 伐採 次作への準備	収穫と並行しながら過繁茂の枝を間引き、整理し、果実への日照を遮らないようにする。 収穫が終了したら直ちに伐採し、次作に備える。			

● パッションフルーツの品種

品種名	特徴	留意点
サマークイーン	紫系	ルビースターの花粉を受粉すると着果率が向上する。
ルビースター	赤系	自家受粉で着果するが、着果過多に注意する。

● パッションフルーツで登録されている農薬

対象病虫害	薬剤名	使用倍数	使用時期	使用回数
円斑病	アミスター10フロアブル	1,000倍	前日	3
	ダコニール1000	1,000倍	14	3
疫病	アリエッティ水和剤	800倍	7	3
かがらみ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	30	2
	アブロードフロアブル	1,000倍	14	2
アザミヤ類	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	7	2
ハダニ類	クミアイアタックオイル	100倍	収穫後~開花期	-

※平成29年1月6日現在の登録内容を掲載したものである。

● その他の病虫害対策

- 立枯症予防・・・苗は高植えし、地際部を露出させて株もとを濡らさないようにする。
- 疫病予防・・・ハウス外からの雨水の侵入を防ぐ。かん水が果実にかからないようにする。
- スリップス対策・・・ハウス内外の除草を行う。受粉後すぐに花がらを落とす。

● 施肥 (10a当たり)

施肥時期	肥料の種類	施肥量 (N量)	年間施肥割合
植付け時	奄美果樹配合 または 蜜のめぐみ2号	60kg (4.8kg)	30%
	12月 奄美果樹配合 または 蜜のめぐみ2号	90kg (7.2kg)	45%
受粉終期	S-226	50kg (6.0kg)	25%

※奄美果樹配合 (N-P-K=8-8-5)
※蜜のめぐみ2号 (N-P-K=8-3-3)
※S-226 (N-P-K=12-12-16)

鹿児島県園芸振興協議会大島支部

連絡先 大島支庁農林水産部農政普及課 0997-57-7274
(同) 瀬戸内町駐在 0997-72-0184